



Christopher Smit  
クリストファー・スミット  
ティスアート代表

スミット氏は、メディアや芸術と障害のある身体の興味深く人を魅了して止まない関係性について、執筆、講義を行ってきた。障害、芸術、ポップカルチャーに関する著書やエッセイは、1996年に彼がこの仕事に携わるようになって以来、好評を博している。ティスアートは現代芸術を通じて障害者についての認識を変えることに取り組んでいる芸術文化組織である。



Jumhol Chinaprapath  
ジュンボン・チナプラバート  
芸術療法家

タイのバンコクで、自閉症やパーキンソン病のある人に向け、アートを活用し、それぞれの症状にあわせた芸術療法を実践している。2014年には重度の知的障害のある人の作品展「セルフ+アート・エキシビション・セラピー」を開催。生きつらさを抱える人たちの社会参加や、そうした人たちについての社会的な理解の促進を目的に活動を行っている。



Thomas Röske  
トーマス・レスケ  
プリンツホルンコレクション ディレクター

レスケ氏は、ハンブルグ大学で、美術史、音楽学、精神医学を学び、1991年ハンス・プリンツホルンについての本を執筆するとともに、博士号を取得。2002年よりハイデルベルグにあるプリンツホルンコレクションのディレクター。現在ハイデルベルグ大学とフランクフルト大学の研究施設に所属。その傍ら、フリーランスのキュレーターとして幾つかの展覧会を企画。2012年、ヨーロッパ・アウトサイダー・アート協会の会長に就任した。



Colin Rhodes  
コリン・ロードス  
シドニー大学芸術学部教授

ロードス氏は芸術家、著述家でもある。近現代の美術や文化について、またセルフポートレート及びアウトサイダー・アートについて執筆や講演活動を行う。シドニー大学で2008年に設立されたSTOARC (Self-Taught and Outsider Art Research Collection) のディレクターを務め、国際的なセルフポートレートとアウトサイダー・アートの雑誌である「Elsewhere」の編集にも携わっている。



Yuko Hasegawa  
長谷川祐子  
滋賀県顧問

キュレーター／美術批評／東京藝術大学教授。京都大学法学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。水戸芸術館学芸員、ホイトニー美術館客員キュレーター、世田谷美術館学芸員、金沢21世紀美術館学芸員及び芸術監督を経て、2006年に東京都現代美術館チーフキュレーターに就任、現在、参事。世界各地で多くのビエンナーレ、国際展の企画をてかける。2014年より滋賀県顧問として、滋賀県が整備を進める新生美術館への助言を行っている。Photo: Yasuyo Takahashi



Martine Lusardy  
マルティエヌ・リュザルディ  
アル・サンビエール美術館長

パリ市立アル・サンビエール美術館長。1994年より現職。アール・ブリュット、アウトサイダー・アート、フォークアート分野のリーダーとして50以上の展覧会でキュレーターを務め、また数多くの図版出版も手がけている。2010年「アール・ブリュット・ジャポネ展」開催。会期中、来場者12万人を動員。



Monika Jagfeld  
モニカ・ヤークフェルト  
ラガーハウスミュージアム館長

大学で美術史、心理学、聖書考古学を専攻し、大学院生として文化管理を研究した。研究領域はアール・ブリュット、ナイーブアート(素朴派)、アウトサイダー・アート他。2006～2007年ドイツのシャルロッテ・サンダー博物館共同代表。2008年より現職。「ラガーハウスミュージアム」(Museum im Lagerhaus)はサントカレン市にあり、スイス素朴派、アール・ブリュット協会により設立された。ローザンヌ市のアール・ブリュットコレクションと並ぶスイスを代表する美術館。



Kenjiro Hosaka  
保坂健二郎  
東京国立近代美術館主任研究員

1976年生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程(美学美術史学)修了。東京国立近代美術館主任研究員。近現代美術の専門家の立場から、アール・ブリュットの研究、評価に携わる。2012年～しがアール・ブリュットアドバイザー、2015年～「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会」(文化庁、厚生労働省共催) 構成員、2015～16年東京芸術文化評議会専門委員(アール・ブリュット検討部会)を務める。Photo: Keizo Kikoku



Patric Gyger  
パトリック・ギゲール  
フランス国立現代美術センター  
リュール・ユニック館長

歴史家、作家、学芸員。1999年から2010年にかけて、「ユートピア」をテーマにした人間の文化・芸術をコレクションしている。「マノン・デュール」(空想科学博物館・スイス)の館長を務める。展覧会やイベントの企画はもちろん、美術評論・研究・出版を幅広く行っている。2011年より、フランス、ナント市の国立現代美術センター「リュール・ユニック」の館長を務め、2017年に行われるナント市と日本の文化芸術国際交流事業の主催者の一人である。



02.10-02.11

# アール・ブリュット国際フォーラム | 2017

日程 | 2017年2月10日[金]—11日[土・祝] 会場 | びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海  
主催 | アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会  
構成団体 | ボーダレス・アートミュージアムNO-MA(社会福祉法人グロー[GLOW])、滋賀県[県民生活部文化振興課/健康医療福祉部障害福祉課]、滋賀県立近代美術館、近江八幡市、一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人愛成会、NPO法人はれたりくもったり、滋賀県施設合同企画展実行委員会

展覧会

「ライフワークイズム —日本のアール・ブリュット—」

独創的なライフワークから生み出される全国のアール・ブリュット作品を展示します。

2017年2月10日[金]・11日[土・祝]・12日[日]

9:00—21:00[最終日は14:00まで]

会場 | びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海

入場料 | 500円

※アール・ブリュット国際フォーラム、アメニティーフォーラム参加者無料。  
中学生以下、障害のある方と付添者1名無料。

主催 | 社会福祉法人グロー[GLOW]～生きることが光になる～

助成 | 平成28年度 日本郵便 年賀寄附金

展覧会

「シガカラー3」

滋賀県内を作品調査して出会った7名の独創的な作品を展示します。

2017年2月10日[金]・11日[土・祝]・12日[日]

9:00—21:00[最終日は14:00まで]

会場 | びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海

入場料 | 無料

主催 | 社会福祉法人グロー[GLOW]～生きることが光になる～

助成 | 障害者の芸術活動支援モデル事業[厚生労働省補助事業]



「ライフワークイズム —日本のアール・ブリュット—」関連イベント

「こだわり表現を探るトークセッション」

2月11日[土・祝] ①13:30—14:10 ②15:00—15:40

講師 | 上田諭([社福]はる)、大乗裕美子([特非]楽笑)、角地智史([社福]みんないてきる)、小林瑞恵([社福]愛成会)、斉藤知子([社福]ゆうゆう)

聞き手 | 横井悠([社福]グロー[GLOW])

「出口はひとつ! 巨大迷路をつくろう」

2月10日[金]、11日[土・祝] 9:00—18:00、12日[日] 9:00—14:00

※写真は過去の展示風景です。

# 02.10

2月10日[金]

## 厚生労働省 障害者の芸術活動 支援モデル事業実践報告会 I

福祉事業所、特別支援学校、病院の関係者によるシンポジウム

参加費 | 無料

10:00—11:30

「障害のある人の創作支援について」

石黒望 [(一社)滋賀県作業療法士会事務局長]

加藤郁子 [滋賀県立精神医療センター作業療法士]

貴瀬朗 [(社福)虹の会わになろう施設長]

佐々木信一 [滋賀県立近江学園支援員]

寺田伸一 [滋賀県立野洲養護学校主幹教諭]

藤野裕美子 [滋賀県立三雲養護学校講師]

進行 | 木元聖奈 [アイサアドバイザー]

## 厚生労働省 障害者の芸術活動 支援モデル事業実践報告会 II

実施10団体による実践報告&パネルディスカッション

12:20—14:15

「モデル事業で積み上げたノウハウを全国へ」

主催 | 社会福祉法人グロー [GLOW]

助成 | 厚生労働省 障害者の芸術活動支援モデル事業

16:20—17:45 <パフォーマンスイベント>

## SPARKLING DANCE THEATER

障害のあるダンサーとアーティストらが表現手法の異なる3つのダンスを発表

入場料 | 無料

出演 | 手話ダンス YOU&I

車椅子ダンス | ジェネシス・オブ・エンターテイメント

コンテンポラリーダンス | 湖南ダンスワークショップグループ

主催 | 2020年東京オリンピック・パラリンピックにむけた  
障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク

助成 | 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

※都合により、プログラム内容、時間等が変更になる場合がございます。

## アール・ブリュット国際フォーラム2017①

# 02.10

2月10日[金]

精神医学者・芸術史学者ハンス・プリンツホルン[1886—1933]が収集した作品を紹介するプリンツホルンコレクションのディレクターであるトーマス・レスケ氏の講演をはじめ、アール・ブリュットを扱う各国の美術館長によるパネル・ディスカッション、アメリカ、タイ、オーストラリアの研究者の特別報告など、世界各地のアール・ブリュットの今を発信し、議論を深める。

参加費 | 1000円[10—11日の2日間、1日のみ参加も同料金]

10日通訳あり、11日同時通訳あり

14:25—15:15 <特別報告1>アメリカ

「ディアアートについて」

クリストファー・スミット Christopher Smit [ディアアート代表]



15:15—16:05 <特別報告2>タイ

「タイでの取り組みについて」

ジュンポン・チナブラパート Jumphol Chinapraphat [芸術療法家]

助成 | 独立行政法人国際交流基金アジアセンター



展覧会「ライフワークイズム」、「シガカラー3」と並行して  
タイのアール・ブリュット作品を展示

<お問い合わせ> 社会福祉法人グロー [GLOW] ~生きることが光になる~  
法人本部企画事業部  
TEL | 0748-46-8100 FAX | 0748-46-8228  
http://www.no-ma.jp

## アール・ブリュット国際フォーラム2017②

# 02.11

2月11日[土・祝]

9:30—10:30 <特別報告3>ドイツ

「プリンツホルンコレクションについて」

トーマス・レスケ Thomas Röske [プリンツホルンコレクション ディレクター]



10:30—11:30 <特別報告4>オーストラリア

「オーストラリアのアール・ブリュット」

コリン・ロードス Colin Rhodes [シドニー大学芸術学部教授]



Anthony Mannix 'Green Dotted' c.1992

11:40—12:30 <講演>

「人間の本质に迫る美術館を構想する」

長谷川祐子 [滋賀県顧問]

13:20—15:20 <パネルディスカッション>

「アール・ブリュットと美術館」

マルティエヌ・リュザルディ Martine Lusardy [フランス:アル・サンビエール美術館長]

モニカ・ヤークフェルト Monika Jagfeld [スイス:ラガーハウスミュージアム館長]

長谷川祐子 [滋賀県顧問]

コーディネーター | 保坂健二郎 [東京国立近代美術館主任研究員]

15:25—16:05 <特別報告5>フランス

「2017 ナント×ジャパン プロジェクト」

パトリック・ギゲール Patric Gyger [フランス国立現代美術センター リュー・ユニック館長]

16:10—17:25 <パネルディスカッション>

「国際文化交流とアール・ブリュット」

岡部大介 [外務省 文化交流・海外広報課長]

朝川知昭 [厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部企画課長]

内丸幸喜 [文化庁 文化部長]

久保厚子 [2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた  
障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク会長]

主催 | アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会

助成 | 平成28年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業  
独立行政法人国際交流基金アジアセンター [プログラム:特別報告2]

# 02.12

2月12日[日]

## アール・ブリュットネットワークフォーラム2017 ～つながるアール・ブリュット～

参加費 | 無料

9:30—10:00 <報告>

「国際交流の取組について」

西川賢司 [社会福祉法人グロー (GLOW) 文化芸術推進課長]

クリストファー・スミット Christopher Smit [ディアアート代表]

10:00—11:00 <対談>

「文化芸術と地方創生」

篠田昭 [新潟市長]

青柳正規 [アール・ブリュットネットワーク会長/前文化庁長官]

11:15—13:00 <シンポジウム>

「表現活動がなくなるもの」

キーノートスピーチ、聞き手 | 保坂健二郎 [東京国立近代美術館主任研究員]

事例発表 | 板垣崇志 [るんびい美術館アートディレクター]

上田假奈代 [NPO法人こえとことばとこころの部屋 (ココローム) 代表]

14:00—16:00

## アール・ブリュットネットワーク会員交流会

主催 | 滋賀県、社会福祉法人グロー [GLOW]

協力 | アール・ブリュットネットワーク

アール・ブリュットネットワークフォーラム2017に関するお問い合わせ事務局

滋賀県県民生活部文化振興課

TEL | 077-528-3340

E-mail | binoshiga@pref.shiga.lg.jp



会場へのアクセス | 滋賀県大津市におの浜4-7-7

<交通のご案内> JR「大津駅」から無料シャトルバスで約10分、JR「大津駅」からバスで約12分。(なぎさ公園線・有料) タクシーで約10分。湖西線「大津駅」からタクシーで約15分。[車をご利用の場合] 名神高速道路大津I.C.より3.7km (平常時約10分)。京滋バイパス石山I.C.から422号経由で6.9km (平常時約15分)。※駐車場は台数に限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。